

第3回 みんなの支援フォーラム in 萩 ～ E.G.F からの実践報告と検証～

社会福祉法人 E.G.F

〒759-3204 山口県萩市大字下小川1000番地

助成事業の概要

名称「第3回 みんなの支援フォーラム in 萩～ E.G.F からの実践報告と検証～」

E.G.Fでは、支援の失敗と成功を、実践報告と福祉サービスの検証を行うことで、「他にどのような方法があるのか」「将来何が必要なのか」をフォーラムに参加の皆さんと一緒に提案したいと考えています。固定の枠にとらわれず、本音で語り合うことを目的とするのがこのフォーラムです。第3回となる今回は、基調講演に関西国際大学教育学部福祉学科教授・中尾繁樹先生をお迎えし、教育現場の最新の情報や、今どの業界でも課題になっている「人財育成」についてご講演いただきました。

開催日時

平成28年2月7日（日）

9：20～16：00

会場

社会福祉法人E.G.F法人本部となり

地域交流スペース「田園」

〒759-3204

山口県萩市大字下小川1000番地

TEL（08387）4-5838

プログラム

9：00～9：20 受付

9：20～9：30 開会式 主催者挨拶 インフォメーション

9：30～10：30 行政報告

＊山口県健康福祉部障害者支援課在宅福祉推進班

主査 吉井 明生氏

＊萩市保健福祉部兼福祉事務所福祉支援課

課長 鷲頭 秀明氏

＊益田市役所生活福祉課障がい者福祉係

主任 吉田 眞由美氏

10：30～10：40 休憩

10：40～12：00 基調講演「人財育成について」

関西国際大学 教育学部 教育福祉学科教授

中尾 繁樹先生

12：00～12：45 昼食

12：45～15：45 実践報告・会場参加型ディスカッション

実践① 福祉と農業

「こつこつと、ゆかいな彼らと、本気の農業」

社会福祉法人E.G.F のんきな農場

支援員 須川 裕斗

実践② 医療と福祉

「居場所を求めて飛び出す君へ・・・」

山口県立こころの医療センター

地域連携室副室長 橋本 達哉氏

精神保健福祉士 奥山 紗央里氏

15：45～16：00 閉会式

事業の成果

今回の外部参加者は27名でした。法人職員の内部研修も兼ねているため、職員を合わせると80名の参加となりました。アンケートで今回の

フォーラムの感想を聞いたところ、回答20名のうちとても良い17名、良い3名と外部参加者の評価としては概ね良かったと考えられます。

参加者の職種については、医療関係者、教育関係者、保護者、行政、相談支援事業所、そのほか福祉施設従事者と、ほぼ専門家と言われる方々でした。狙いの方向性としては悪くないと感じています。この中に、保育士が入るとより内容も深くなる気がしました。

内容として中尾先生の基調講演は好評で、「わかりやすさ」「速実践に役立つ内容」との感想が多く、「ぜひまたお話が聞きたい」との要望が出されました。先生が何度も強調されるのは、気になる子供達の早いうちからの発見と、適切な対応の必要性でした。適切な対応を先送りにすることで、成長過程で犯罪を起こしてしまうほどの事態になってしまう。居場所を失った彼らをだれが支援するのか。1人の人間が成長する過程で、どれほどの大人が関わるのか。専門家とは、ただ断片的な一部分だけを見るのではなく、すべてを連続体としてとらえなければならず、他人事として流してはならないと感じました。そのためには、私たち専門家は人を観る力を養わなければなりません。

中尾先生が教授という立場で現代の学生をみて感じることは、「経験不足」「がまんする力が弱い」また、「福祉分野離れ」も感じているとのことでした。昔と違い、ものは豊かになり、考えたり知恵を出したりしなくても、情報はすぐに得ることのできる現代。すぐに得られる分、飽きるのも早い。社会背景も大きな要因であると感じました。しかし、「人が好き」であるかどうかで仕事として続けられるかどうかという先生の一言は、胸にスッと落ちた感じがしました。最終的にはこの一言に尽きるのです。

実践報告は今回初めて、外部の関係機関に発表

をお願いし、ご協力いただいたことが大きな成果と言えます。少人数なのでもう少し参加者の方々の意見を引き出していくべきだったと、職員より反省が残りました。医療と福祉との連携は欠かすことのできない大きなパイプです。今回の発表で、精神科医療の抱える現実と理想のギャップを目の当たりにしました。昔の社会的入院とは少し内容が違っていますが、最終的に最後の砦に病院がならざるを得ない状況になるのです。果たして、それはどうなのか？措置から契約に福祉制度が変わり、そのことも大きく影響を受けているのがこのテーマの背景にあるような気がしました。我々は、福祉施設の立場から、実践を通し問題提議はできますが、やはりそのほかの機関はまた違う課題を抱えています。次回も、当法人の実践報告だけでなく、外部の機関の取り組みを発表していただく方向を考えています。

来年度の構想としては、外部参加人数の目標50人以上を目指し、分科会形式でテーマ別に会場を分けて発表し、より興味をもって参加できるような形を考えています。

全体的な評価としては、毎年開催することで実績を積み、関係機関のネットワークづくりの基礎ができつつあると感じます。今後は5年、10年という長期的な計画をもって臨みたいと考えます。

成果の広報・公表

今年度ホームページには、写真を掲載予定。

今後の展開

3回目にあたる今回のフォーラムでは、初めて当法人以外の機関から実践報告をしていただきました。精神科医療の課題として、施設でも、在宅でも生活できない障害をもつ人たちの行き場とし

て今精神科病院に入院せざるを得ない人たちが存在すること、その人たちの支援の在り方としての取り組みについて、山口県立こころの医療センターより問題提議がなされました。障がいをもっている人たちの多様化により、生活のしづらさを抱えた人たちは増え、その支援の在り方は現在大きな問題となっています。病院だけの課題としてではなく、施設の在り方、行政の役割、相談支援事業所の役割といったそれぞれの連携がますます必要になってくることが垣間見えるフォーラムでした。また、私たちは施設の立場から考えてみた時に、施設に入る前の環境とその人が育ってきた背景を十分に把握することの大切さと、本当の課題はどこにあるのかを見極める力を求められていると感じました。早期発見、早期対応は予防にはならない。そうなる前に手を打たなければ、施設を利用する人はこれからますます増えてくる。愚班少年のケアに携わる中尾先生の言葉には、私たち施設で働く職員の今後の在り方について、大きなヒントをいただいた気がしました。

このことから、今後もこのフォーラムを定期開催していくことを約束して閉会しました。専門家が集い、それぞれの役割を考えながら連携を深める場所になることを目的にこれからも発信し続けます。